

フィルタリングによる迷惑メール対策

東京女子医科大学

東京女子医科大学では、年々増加する迷惑メールによる業務効率の低下を改善するため、平成20年度より、学内のメールサーバの手前で迷惑メールをフィルタリングし、学内への侵入をできる限り遮断するシステムを導入して課題の解決を図っている。

1. 導入の経緯

平成19年頃から受信する迷惑メールの数が増加の一途をたどり、迷惑メールによる業務効率の低下は見ごせないレベルに達していた。

「メールの受信に時間がかかる」、「必要なメールを探し出すのに時間がかかる」、「危険なサイトへ誘導されてしまう」等の、迷惑メールを受け取る利用者個々の不利益もさることながら、通常のメールの遅配や不達など、大学全体の電子メールサービスの質の低下を招いていた。

この問題に対処するため、平成20年度より迷惑メール対策として、学内メールサーバの手前で迷惑メールをフィルタリングし、学内への侵入をできる限り遮断するシステムを導入することで問題が解決した。

2. 導入の形態、内容

実施規模は全学を対象とし、学生、教職員のメールアドレス総数約5千である。

学内のメールサーバの手前で「送信元情報」と「本文内容」との2段階の判定処理を行い、迷惑メールをフィルタリングしている。(図)

当初は、「送信元情報」による遮断判定の正確性に疑問を持っていたため、研究系の2つのサブドメインでは「本文内容」による1段階のみの判定処理を行っていたが、1年間の稼働実績を検証した結果、信頼できると判断し、平成21年度からは全学で2段階の処理を行っている。

3. 導入の効果（メリット、デメリット）

(1) メリット

- ・学内へ到達する迷惑メールの数が激減した。
- ・利用者側では毎朝の「メールの選り分け作業」が、ほぼ無くなった。
- ・管理者からみてメールサーバの負荷が下がり、メールシステムの安定性が向上し、送り手としてのセキュリティ、信頼性が向上した。

(2) デメリット：

- ・稀に誤検知が発生することがある。

4. 今後の課題

導入時および運用継続の費用は高価であるが、得られた効果は期待以上のものがある。今後、メールサービスを運用する上では、迷惑メール対策の仕組みは不可欠であり、継続・維持してゆくことが最大の課題であろう。

